

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和3年第Ⅲ四半期（7～9月）

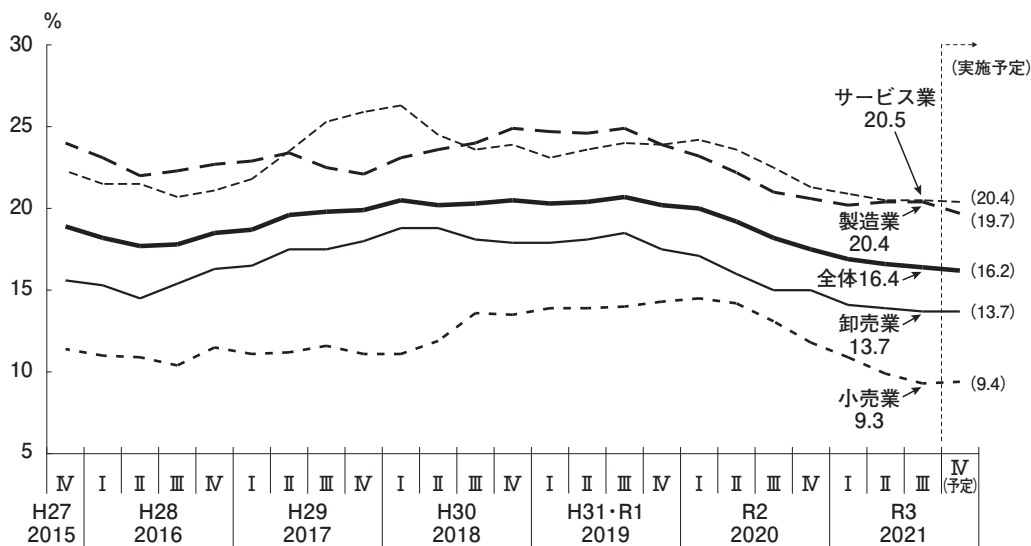
設備投資：わずかに低下    資金繰り：やや悪化  
採算状況：やや悪化        雇用人員：4期連続で不足感が強まる

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（令和3年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は全体では16.4%となり、前期（令和3年4～6月）の16.6%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は小売業9.3%（前期9.9%）がやや低下、卸売業13.7%（同13.9%）はわずかに低下した。製造業20.4%（同20.4%）とサービス業20.5%（同20.5%）はともに横ばいで推移した。

図表1-1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和3年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では16.2%となり、わずかに低下する見通しとなった。

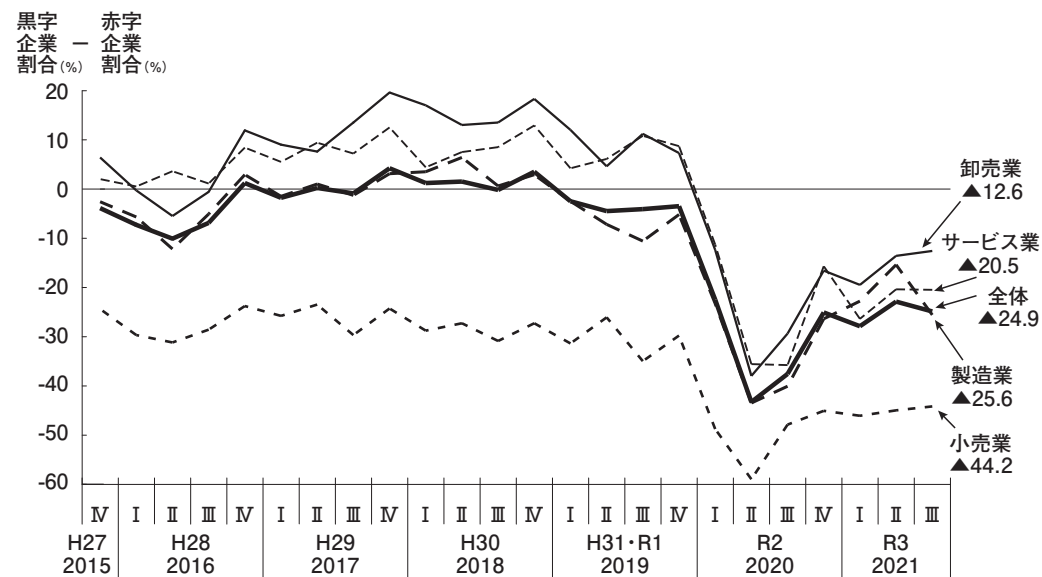
業種別にみると、当期と比べて卸売業13.7%、小売業9.4%、サービス業20.4%はいずれも横ばいとなった。一方、製造業19.7%はやや低下した。

## ■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合で見ると、全体では▲24.9（前期▲22.9）となり、前期と比べてやや悪化した。

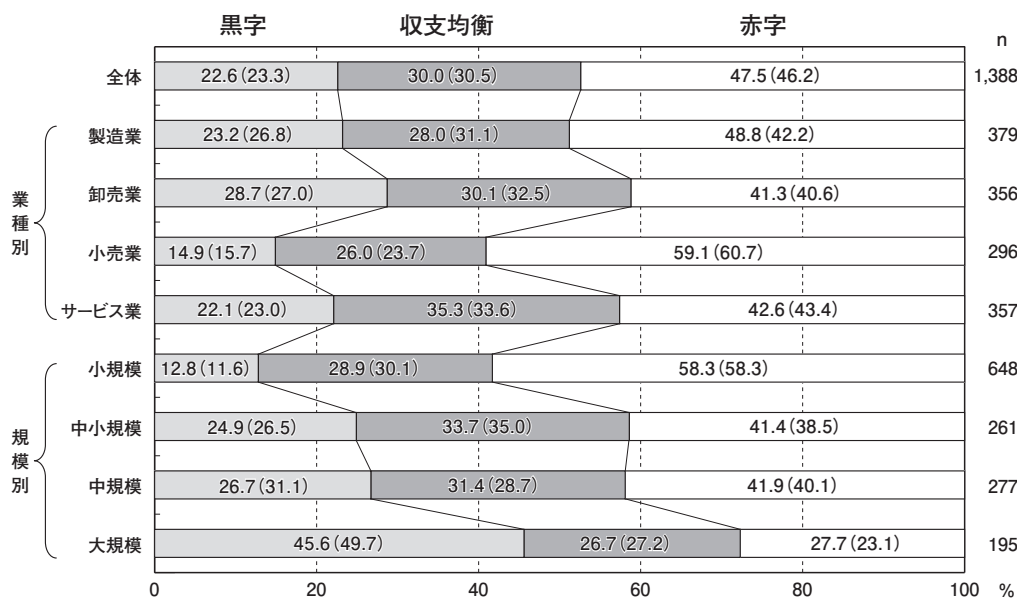
業種別にみると、製造業▲25.6（同▲15.4）は10.2ポイント減少し大幅に悪化した。一方、卸売業▲12.6（同▲13.6）は1.0ポイント増加しやや改善、小売業▲44.2（同▲45.0）は0.8ポイント増加しわずかに改善した。

図表1-2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字の割合が高い。小規模は黒字が12.8%（同11.6%）を占め、大規模は黒字が45.6%（同49.7%）を占める。小規模を除く全ての規模で黒字の割合は低下した。

図表 1-3 採算状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和3年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

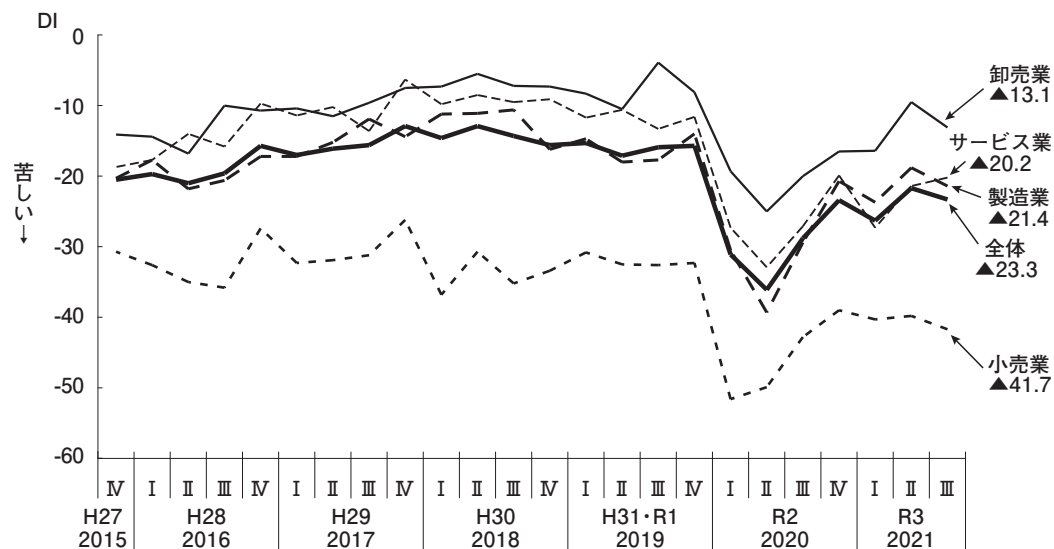
### 資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、全体では▲23.3(前期▲21.7)と1.6ポイント減少しやや悪化した。

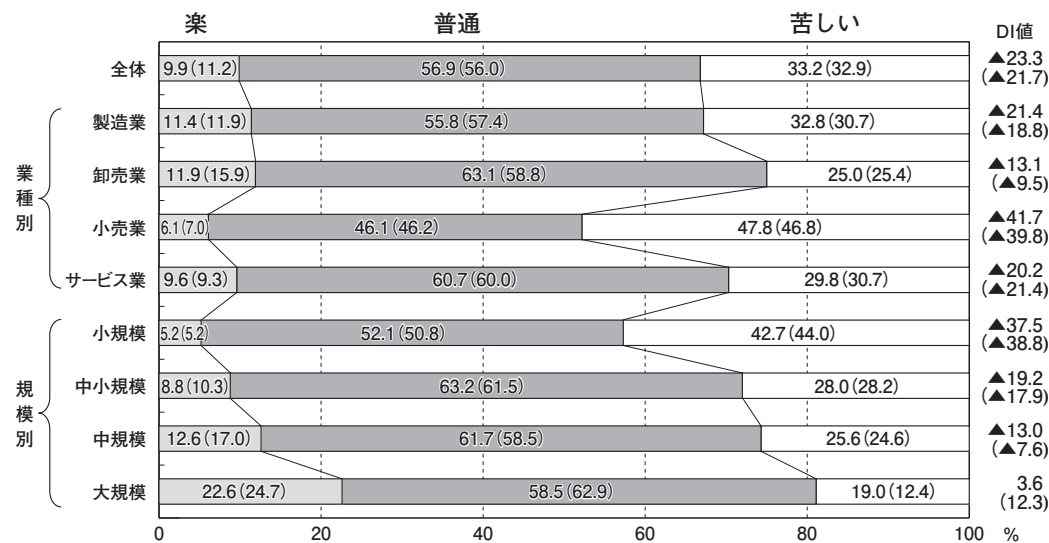
業種別にDI値をみると、卸売業▲13.1(同▲9.5)は3.6ポイント減少し悪化した。製造業▲21.4(同▲18.8)は2.6ポイント減少、小売業▲41.7(同▲39.8)は1.9ポイント減少とともにやや悪化した。一方、サービス業▲20.2(同▲21.4)は1.2ポイント増加しやや改善した。

規模別にDI値をみると、規模が小さくなるほど資金繰りが苦しいと回答した企業の割合が高く、小規模は▲37.5(同▲38.8)となった。

図表 1-4 資金繰りDIの推移



図表 1-5 資金繰り状況（業種別・規模別）

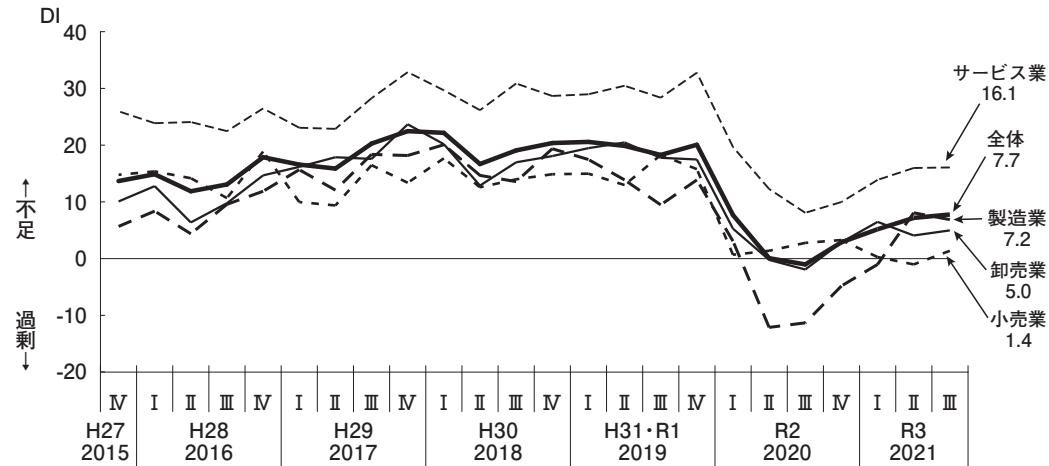


注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和3年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## ■雇用人員■

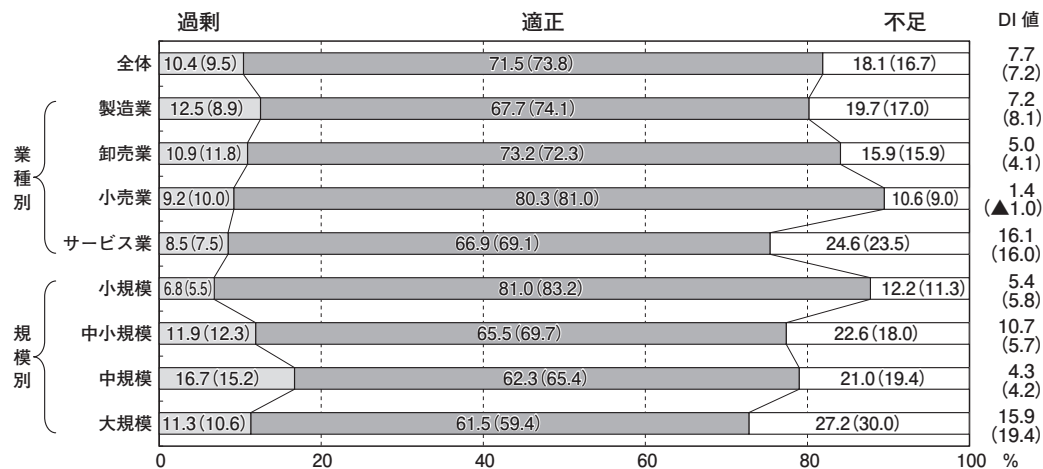
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、全体では7.7（前期7.2）となり、4期連続で不足感が強まった。

図表 1-6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、大規模15.9（同19.4）は3.5ポイント減少しやや低下した。

図表 1-7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。( )内は前期(令和3年4~6月)の数値。  
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。